

シリーズ

町長室からの便り

温故知新

あれから4年

町にとっても、私にとっても1月18日は特別の日です。4年前に行われた「合併の是非を問う」住民投票の日です。

合併は住民皆さんの意思が大切であること、住民投票を公約にかかげ町長に当選させて頂いたこともあって、重い一票を投じて頂きました。結果、わずかの差ではありませんが、当面単独での町づくりが決定されました。

当初、2年間は行政改革・機構改革と、正直のところやみくもに突っ走り、議会の皆さんからは「行き当たりばったり」と批判され、補正予算も否決。全会一致の問責決議では眠れない日が続きました。しかし、税だけは決して上げてはいけない、ただそれだけを念頭に頑張りました。

当時、約67000人の人口は85000人を超え、平成15年度1,309百万円の地方税は平成19年度約1,900百万円になりました。

元気な子どもが増える、それを見守って頂く高齢者の方々が頑張る「まちづくり」が始まりました。全て皆様のおかげ、感謝、感謝です。

結いの心

昨年未から「新聞が「結いの心」と題して長野県米村のまちづくりを連載しています。以前にこのコーナーで紹介させてもらいました「げたばきヘルパー」の村です。

この村は、村長の発案でもある「名誉研究員募集」を行い、無報酬で教育や活性化にひと役買ってもらおう制度で、東大、都立大の名誉教授も応募。「農芸化学」の分野では、洪柿で村おこしに協力してくれる先生の応募を受けたり、それらの研究員の御世話でノーベル賞物理学者の小柴昌俊氏、青色ダイオードを開発した中村修二氏の中高生のための講演会を実現させたりしています。

昨年、この村長にお会いする機会がありました。物静かな小柄な村長のどこにそのパワーがあるのか驚かされました。

あらためて朝日町をみますと、地理的条件、交通アクセス、インフラの整備、企業など、何の不足もありません。

問われているのは、トップのリーダーシップであり、職員の間でやる気です。

今年こそ各々が感動できる仕事をしようという決意を固めました。



恵まれた交通アクセス

朝日のチカラ

～各地区まちづくり協議会の紹介～

縄生地区

縄生自治区町づくり協議会は、平成18年5月、町民参加による個性豊かで活力ある地区を形成するために縄生自治区に設置されました。

組織は区民を対象とし、その役員は地区協議員、班長代表、自主団体の代表で構成しています。

協議会では、昨年度から天神山散策道整備事業、防災用水利整備事業、地区ぐるみ安全対策事業の3事業を継続的に取り組んで参りました。

地区の子供、高齢者や体の不自由な方々の安全誘導などを目的とした地区ぐるみ安全対策事業では、毎月2回パトロールを実施しています。平成19年度から小学校の地区PTA会員も下校時に子どもの見守りに出ていただいております、協力の輪が広がっています。

私達が住んでいる地区では、防犯・防災・環境・交通安全など多くの問題を抱えています。町づくり事業を通して区民の絆を深め、区民相互の連帯と協力によって問題解決を図り、住みよい地域社会を築いて参りたいと思います。



(力を合わせて整備する天神山散策道)



(地区の絆を深め子どもを見守る)

【平成19年度事業】 天神山散策道整備事業、防災用水利整備事業、地区ぐるみ安全対策事業